

渡良瀬川上流を訪ねる

草木ダム・足尾銅山・渡良瀬遊水地見学会



渡良瀬川は、かつて太日川(ふといかわ)と呼ばれ、足利市の対岸から矢場川を通り、古河市の西部で合ノ川という川に連なり、現在の江戸川の川筋を通して、東京湾に直接注いでいました。

江戸時代、徳川家康は、埼玉平野の開発、舟運による東北地方との経済交流、江戸を守るための外堀を作るといった目的で、利根川の川筋を渡良瀬川、毛野川(鬼怒川)、常陸利根川と合流させながら、東の方へと変えていく工事を伊那忠次に命じました。これを東遷(とうせん)といい、伊那家は三代をかけてこの大事業に取り組みました。

1594(文禄 3)年頃には、利根川の水を放水するために、逆川と島川が設けられ、1621(元和 7)年頃には、利根川と太日川を直結させる工事が行われました。これにより太日川(渡良瀬川)は、利根川最大の支流となったのです。しかし、渡良瀬川も利根川も、洪水が起こった他場合、昔の河道に沿って東京湾に流れてきます。東京の住民にも大きくかかわる河川です。

今回は、この渡良瀬川の上流域での治水対策・草木ダム、更に上流の足尾銅山、また中流域での治水対策・渡良瀬遊水地を訪ねます。

下記のとおり実施しますので多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時	8月11日(日)	7:30集合
集合場所	JR新小岩駅 東北広場(裏面地図参照)	
参加費	1,000円(資料、交通費、保険料の一部として)	
募集人数	45名(先着順)	boumatijyuku@yahoo.co.jp 携帯 080-4006-8819
行 程	7:30 出発(集合次第出発します)	
	10:00 草木ダム 到着	
	11:20 足尾銅山 到着(見学・昼食)	
	15:30 渡良瀬遊水池 到着	
	16:15 道の駅 きたかわべ 到着(お土産購入 産直野菜等)	
	18:30 JR新小岩駅 東北広場 到着(道路状況等により流動的です。)	

主催 水の週間実行委員会
市民防災まちづくり塾実行委員会・関東地域づくり協会

草木ダム

草木ダム（くさきダム）は、群馬県みどり市東町座間、一級河川・利根川水系渡良瀬川の本川上流部に建設されたダムである。旧名は神戸ダム（ごうどダム）。独立行政法人水資源機構が管理する多目的ダムで、東京都を始めとする首都圏への利水と渡良瀬川・利根川の治水を目的とした利根川水系8ダムの一つである。高さ140.0mの重力式コンクリートダムであり、利根川水系では川治ダム（鬼怒川）と並んで奈良俣ダム（檜俣川）の158.0mに次いで高い。



足尾銅山

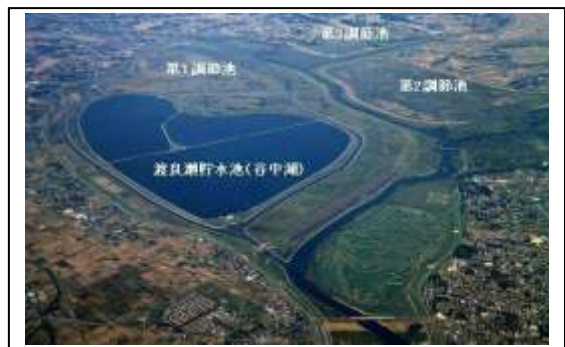
初期：足尾銅山は旧足尾町（現日光市）備前楯山を中心に発展した日本有数の銅山。江戸時代は幕府の直営で、明治に入ってから政府の経営となったが、1871年（明治4年）民営に移され、足尾銅山は旧足尾町（現日光市）備前楯山を中心に発展した日本有数の銅山。江戸時代は幕府の直営で、明治に入ってから政府の経営となったが、1871年（明治4年）民営に移され、1877年（明治10年）古河市兵衛の経営となった。

最盛期：明治中頃からは鉱山の近代化も進み、1887年（明治20年）には本山に火力発電所が建設された。その後も大規模な資本の投下による機械化が進み、1888年から1897年まで（明治21年から30年まで）には日本全国の銅の生産の40%近くを生産するまでに至った。一方、生産のみを追及した施設増強の結果、煙害は周囲の山々を禿げ山と化し、流出した排水は渡良瀬川下流域に甚大な被害をもたらした。

後期から閉山まで：第二次世界大戦が勃発すると、銅山は無計画に乱掘されるようになった。これにより資源は急速に枯渇し、また施設の老朽化もこれに追い打ちをかけ、1973年（昭和48年）銅山はついに閉山を余儀なくされた。現在は、山々に昔の緑を取り戻すための施策が着々と実を結びつつある。

渡良瀬遊水地

治水機能：洪水時に渡良瀬川、思川、巴波川の合流量全量を一時的に遊水地内に貯留することにより、周辺を溢水による洪水氾濫から防御すると共に、利根川本川（栗橋地点）の計画高水流量に影響を与えないこととしています。



新小岩駅東北広場案内図



集合場所

JR新小岩駅北口から北口連絡通路を渡って、ロータリー広場にお集まりください。

